

基礎学力の充実と個人差の解消を目指して

百合学院小学校は、幼稚園から高校まで一貫した教育理念のもとに運営されている、1955年に開校したミッション系の女子小学校です。百合学院小学校においても、近年、基礎学力の充実と個人差の解消が大きな課題となり、その課題を解決するために、2003年4月マルチメディア学習システム「天神」を全学年、全教科導入しました。今回は、導入後の試行錯誤や現在の活用方法をレポートします。



百合学院小学校
〒661-0974
兵庫県尼崎市若王寺2丁目18番2号
http://www.yuri-gakuin.ac.jp/

1年1組

「じゃあ、1年生にしましょう。」紙谷紀久雄先生の一声で、本日見学するクラスが「1年1組」に決まった。「1年生で操作は大丈夫ですか？」私が尋ねると、「操作は大丈夫です。問題は集中力だね。1年生は、すぐ動き出すからね。」「ではどうしていらっしゃるのですか？」「論より証拠、見に行きましょう。今ちょうど良い時間ですよ。」紙谷先生の先導で、美しい百合の絵がかかるホールを抜けてパソコンルームに向かった。



●パソコンルームへと続く美しいホール

パソコンルーム

パソコンルームに生徒の姿はなく、43台のデスクトップ型パソコンが整然とならんでいた。「誰もいらっしゃいませんね。」私が尋ねると、紙谷先生は時計を見て「すぐに来ますよ。」とニコッと笑った。正にその時、1番乗りの子どもが走り込むようにパソコンルームに入って来ると、どんどん小さい制服の行列がやって来て、いつの間にか席に着き、パソコンに触ったり、隣の子としゃべったり、部屋は一気ににぎやかになった。

「じゃあ、電源付けませう。」担任の齋藤マリ子先生は、大きな声で言った。電源は、教壇のパソコンで一括してONにすることがで

きる。一斉に起動を始めたパソコン。子どもたちは、モニター画面を見つめる。突然、「かわいいー。」と歓声が上がった。「天神」のキャラクターが画面に現れたのである。「何回見ても、いつもここで歓声上がるんです。」紙谷先生が笑って振り返る。頃合いを見計らって、マリ子先生がホワイトボードに大きく板書を始めた。



●1年生が入室した直後のパソコンルーム

国語と算数

マリ子先生がホワイトボードに書いたのは、「天神」で今日学習する目次の名前だ。
ここぞ 日づけとよう日(1,2)
さんすう たずのかなひくのかな(1,2,3,4)
「天神」は教科書準拠なので、目次名を聞けば、生徒はすぐに探すことができる。「算数と国語をいっしょにするようですが、これはよくあることですか？」と紙谷先生にお尋ねすると、「先生によって違うけど、複数教科をすることは割と多いね。今、一番練習させておきたいところを「天神」でやるようにしている。授業終了まで後15分だけど、低学年は15分高学年は20分くらいやるのが標準だね。早い子は15分で5目次くらいやるよ。」

マリ子先生は全員を見渡して、「じゃあ、始めてくださーい。」と言った。生徒は一斉に「天神」に取り掛かった。



●学習開始を宣言する齋藤マリ子先生

「できた！」

子どもたちは、真剣な顔で問題を解いていく。よく見ると、ずっと正解して正解マークの青色がきれいに並んでいる子と、ところどころで間違えて不正解の赤色が混ざっている子がいるのが分かる。自信を持って答えたのだろう、不正解の赤に「えっ、なんで？」と、声をあげる子もいる。そんな小さな動きや声はあるが、概ね教室は静かで、子どもたちは問題に集中している。

早い子が、1つの目次を全部解き終わった。「できた！」誰かが言う。五月雨のように、あちこちから「できた！」の声が続く。不正解のある子は、間違えた問題を正解できるまで復習しなければならない。「できた！」の声に少しあせりつつ、復習を続ける。復習を終えて、正解の青色が一直線に並んだ。「できた！」その子も誇らしげに叫ぶ。



●集中してどんどん問題を解く子どもたち



巡回

「できた人は、“日づけとよう日の2”をやって下さーい。」マリ子先生が、巡回の足を止めて言った。子どもの様子を観察して、問題を解かずにじっとしている子や、逆に、あちこち落ち着きなく見ている子どもを見つけると、ずっと横について問題の説明を始める。子どもが理解出来て、表情がぱっと晴れたのを確認すると、また、巡回を続けた。早くも2目次クリアした子の「できた！」という声が、あちこちから起こった。

3目次目の算数になると、マリ子先生の巡回のスピードが上がった。「先生わかりませーん！」とマリ子先生を呼ぶ子もいる。マリ子先生が、考え方をアドバイスすると、子どもは頷き、また解き始める。マリ子先生は、蝶のようにひらりひらりと席から席を移動し、蜂のようにピンポイントアドバイス。

ここで、終了のチャイム。先生にとっても生徒にとっても非常に密度の濃い時間だった。



●的確なアドバイスをして回るマリ子先生

導入の目的は、基礎学力の充実と個人差の解消

～ 紙谷紀久雄先生へのインタビュー ～

「天神」を導入された経緯をお聞かせ下さい。「天神」を導入したのは2003年4月ですが、導入の目的は、やはり基礎学力の充実と個人差の解消です。授業時間の減少で、反復練習の時間が取れないことから、生徒もだい

たいは知っているが『解けない』或いは、解けるけれど時間がかかるというような『習熟』に課題があり、それは個人差が大きいものでした。

「天神」を導入するまでは、どのような対策を取っておられましたか。

以前は、先生がそれぞれクラスの状態に合わせて、プリントを作成していました。

「プリントと比べて「天神」の良い点、悪い点をお聞かせ下さい。」

良い点の方が多いですよ。クラスの状態に合わせてプリントを作るといってもとても手間がかかるし、さっきも言ったようにそもそも子どもの学力差があるので、全員にピッタリの問題って作れないし、良くできる子に合わせたら2枚も3枚も用意することになるけど、それは大変だし。1年生だと全員に配るだけでも意外と時間がかかる。それに何と云っても、採点して配るまで復習ができない。「天神」は、まったく逆。パソコン教室に連れて行けば、すぐ取りかかれる。「今から行くぞ！」と言って、パソコンの電源を一括で付けて、生徒が全員席に付けば、「はじめ！」だもの。問題はたくさんあるので、よくできる子どもはどんどん進んで行くし、分からない子にはビデオの説明があるし、類題や易しい問題も自動的に出るし、1問ずつ答え合わせをしていくので、その場で復習して理解できるし、基礎学力の充実、個人差の解消の点では、言うこと無しじゃないですか。

「悪い点は、いかがですか。」これは悪い点ではないけど、やはり、どう活用するかですね。プリントは、活用方法が分からないということはないけど、「天神」は、どう活用するか、どう授業に組み込むか、スッと活用できる先生もあれば、なかなか使おうとしない先生もいらっしゃるね。

「天神」を導入された経緯をお聞かせ下さい。これは悪い点ではないけど、やはり、どう活用するかですね。プリントは、活用方法が分からないということはないけど、「天神」は、どう活用するか、どう授業に組み込むか、スッと活用できる先生もあれば、なかなか使おうとしない先生もいらっしゃるね。

「どのようにして、克服されましたか。」やはり、最初に先進的な先生がいろいろ試す中で、有効な活用方法が確立して、それを皆がだんだん真似をするという流れですね。楽で効果があがれば、勝手にやるようになる。それまでは、いくら言っても形だけ。どこでもそうでしょうけど。

「一画期的な活用法を教えてください。」

授業の終わりに、少しだけ「天神」をやったことかな。前は、授業の初めから終わりでまでパソコン教室で「天神」や他のパソコンを使った授業をしようとしていましたが、生徒の統制も取りにくいし、カリキュラムも組みにくいし、回数も少ないしで、無理がありました。今は、算数や国語の授業の終わりに15分とか20分、高学年でも25分くらい「天神」をやるようにしています。効率が良いね。今は、低学年でも最低週1回、高学年は最低週2回やることにしています。

「授業以外で活用されることはありますか。」

保健の先生が時々自習をさせているようです。あと、当校では、小学4年が英検5級を受験することにしているけど、この補習にも「天神」の小学英語を使っています。

「本日は、お忙しいところ取材にご協力いただき本当にありがとうございました。」

こちらこそ、今後もよろしくお願いいたします。



●「天神」の活用方法を語る紙谷紀久雄先生